

岳父・友岡稔の三回忌法要と東京湾ランチクルーズ

右城 猛

1. まえがき

平成 25 年 11 月 30 日、高知空港 10 時 40 分発の ANA で家内と怜佳と三人で東京へ行く。

昨日の第一コンサルタンツ 50 周年記念祝賀会にご出席いただいていた吉田博先生も偶然同じ便に乗っておられた。

東京での目的は、平成 23 年 12 月 11 日に他界した岳父・友岡稔の三回忌法要をするためである。



法要の後に納骨堂の前で記念撮影

2. 岳父の三回忌法要

岳母・政子と一緒に眠っている「小平聖地セントソフィア」で、15 時から兵頭信二・扶美枝さん家族とわが家の家族で友岡稔の三回忌法要を執り行う。

この日が、9 月 25 日に生まれた二人目の孫・航希と初対面。まだ生後 2 ヶ月。寝る子は育つというが、なかなか目を開けてくれない。

祐希は、この夏に二ヶ月間、高知の我が家で暮らしていたので、すっかり私たちになついてくれている。愛想が良いとよけいに可愛い。



17 時より国分寺駅の近くにある湯葉と豆腐の店「梅の花 国分寺店」で食事。ここではじめて航希を抱く。



岳父と岳母が眠る納骨堂

3. 殿ヶ谷戸庭園

食事まで 1 時間ほど時間に余裕があった。国分寺駅そばの「殿ヶ谷戸庭園」を家内と二人で見物する。

武蔵野段丘の礫層から湧出する湧水を利用して造られた庭園。三菱合資会社の社員で、後に満州鉄道副総裁から貴族院議員に

なった江口定條(さだえ)が別荘として造り、「随宜園」(ずいぎえん)と命名している。その後、三菱合資会社の経営者である岩崎彦彌太が買い取り、現在の庭園に整備したものである。

園内には、アカマツ、モミジ、竹林、クマザサが植えられていた。真っ赤に色づいたモミジの紅葉は見事であった。



真っ赤に色づいた紅葉と竹の小径



4. 第一ホテル東京に宿泊



新橋駅日比谷口の SL 広場にある機関車とイルミネーション



絹枝は扶美枝さん宅へ行く。私と怜佳は第一ホテル東京に宿泊。ホテルマンの接客態度がいつもよりも親切に感じた。このホテルではなかったが、系列のホテルで食材偽装があったためだろうか。

5. 東京湾ランチクルーズ

今年の夏に祐希を高知で二ヶ月間面倒を見たお礼とあって、朋男君と和恵が東京湾ランチクルーズをプレゼントしてくれた。



シンフォニークラシオ乗船待合所



シンフォニークラシオの乗船場「日の出ふ頭」。



背後のクルーザーのガラス窓が見えるところが予約をしている二階コンチェルト



昼食はバイキング形式。ドリンクは一人2,000円でビール、ワイン、ジュースなどが飲み放題。

東京湾ランチクルーズは、日の出ふ頭からレインボーブリッジの下を通り、お台場を左側に見ながら東京灯標跡を回って日の出ふ頭に帰るといいう12時から14時10分までの約2時間を食事しながら楽しむというもの。ヤンマーなど企業の団体客も見られた。



昨年の2月に完成した東京ゲートブリッジ。東京湾第三航路を跨ぎ中央防波堤外側埋め立て地と江東区若洲を結ぶ全長 2618m、最大支間 440m のトラス橋。

羽田空港に近く、上は航空機の飛行ルート、下は航路になっていることから上・下とも制限を受けて、恐竜のようなデザインになったと言われている。

雑誌では見ていたが、実物を見るのは初めて。東京ゲートブリッジの勇姿は海上からでない眺めることはできない。

本当に素晴らしい食事をプレゼントしてもらった。



東京ゲートブリッジ



デザートはスイート。



祐希は甲板がお気に入り。

祐希は甲板で大はしゃぎ。



船内にはクリスマスツリー。



航希も嬉しそう。



お台場が見えてきた



レインボーブリッジと東京タワー



レインボーブリッジの下を潜る



祐希と航希



クルージングを終えて日の出ふ頭へ



今年の四月に新開場した歌舞伎座。

6. 銀座を散策

家内と怜佳は今日の最終便で高知へ帰るが、私は12月2日に高松で建設コンサルタツ協会四国支部の役員会があるため、もう一日東京に泊まり、東京から高松に飛ぶことにしている。飛行機の時間まで怜佳は高校時代の友だちと会い、私と家内は銀座を散策。



ユニクロの銀座店。5階建ビルの各フロアの窓際に、回転するマネキンを展示している。



宿泊したロッセシティーホテル錦糸町のホテルから眺めたスカイツリー。